

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年 3 月25日
【事業年度】	第74期(自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
【会社名】	株式会社パレスホテル
【英訳名】	PALACE HOTEL CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 荒 牧 幹 人
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目 1 番 1 号
【電話番号】	03(3211)5211
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 大 屋 愛一郎
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目 1 番 1 号
【電話番号】	03(3211)5211
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 大 屋 愛一郎
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高 (百万円)	27,144	29,125	30,403	31,230	31,494
経常利益 (百万円)	1,737	3,529	4,091	1,900	5,725
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,039	3,430	3,260	1,326	4,114
包括利益 (百万円)	2,005	3,498	3,219	1,549	3,827
純資産額 (百万円)	5,762	9,332	12,443	13,944	17,650
総資産額 (百万円)	96,546	93,441	89,357	86,363	83,877
1株当たり純資産額 (円)	2,872.71	4,703.28	6,301.19	7,018.33	8,912.72
1株当たり当期純利益 金額 (円)	1,039.21	1,748.76	1,665.49	676.84	2,092.43
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	5.8	9.9	13.8	16.1	20.9
自己資本利益率 (%)	44.0	46.2	30.3	10.2	26.3
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	—
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,672	7,017	7,987	7,358	8,160
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,349	1,281	483	400	536
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,421	5,506	7,506	7,022	6,535
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	1,549	1,778	1,775	1,711	2,799
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	841 (690)	847 (686)	878 (690)	932 (684)	971 (651)

- (注) 1 売上高には、消費税及び地方消費税(以下消費税等)は含まれておりません。
2 株価収益率は、金融商品取引所非上場、金融商品取引業協会非登録のため、該当事項はありません。
3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。
4 従業員数には嘱託社員数を含んでおりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高 (百万円)	21,278	23,315	24,600	25,434	25,609
経常利益 (百万円)	1,648	3,403	4,236	1,821	5,650
当期純利益 (百万円)	1,952	3,283	3,357	1,262	4,053
資本金 (百万円)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
発行済株式総数 (株)	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
純資産額 (百万円)	6,973	10,363	13,609	14,805	18,672
総資産額 (百万円)	94,287	91,303	87,258	84,041	82,089
1株当たり純資産額 (円)	3,486.63	5,181.58	6,804.80	7,402.88	9,336.09
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額) (円)	25 (一)	50 (一)	50 (一)	60 (一)	75 (一)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	976.43	1,641.90	1,678.75	631.29	2,026.76
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	7.4	11.4	15.6	17.6	22.8
自己資本利益率 (%)	32.4	37.9	28.0	8.9	24.2
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	—
配当性向 (%)	2.6	3.0	3.0	9.5	3.7
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	604 (407)	614 (415)	628 (430)	676 (432)	693 (405)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 株価収益率は、金融商品取引所非上場、金融商品取引業協会非登録のため、該当事項はありません。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

4 従業員数には嘱託社員数を含んでおりません。

2 【沿革】

昭和35年 2 月	資本金 5 億円を以って株式会社パレスホテルを設立
〃	ホテル及び貸ビルの建設工事に着手、翌36年 9 月竣工
昭和36年 6 月	千代田交通株式会社(商号変更 現パレス交通株式会社(現連結子会社))を設立し営業開始
昭和36年10月	国際観光ホテルとして営業開始
昭和39年12月	資本金を 8 億円に増資
昭和44年 7 月	パレスサービス株式会社(商号変更 現パレスフードサービス株式会社(現連結子会社))を設立し営業開始
昭和44年12月	株式会社ホテルグランドパレスを設立
昭和47年12月	株式会社ホテルグランドパレス、ホテルグランドパレスを千代田区飯田橋に開業
昭和55年 3 月	資本金を10億円に増資
昭和61年 8 月	グアムパレスコーポレーションを米国領グアム島タムニン市に設立
昭和62年 3 月	株式会社パレスホテル大宮を設立
昭和62年10月	パレスセントラルスポーツ株式会社をセントラルスポーツ株式会社との合併により、大宮市に設立
昭和63年 4 月	株式会社パレスホテル大宮、パレスホテル大宮を大宮駅西口ソニックシティーに開業
〃	パレスセントラルスポーツ株式会社、パレスセントラルフィットネスクラブを大宮市ソニックシティービル内に開業
平成 3 年 4 月	グアムパレスコーポレーション、パレスホテルグアムを開業
平成 3 年 5 月	株式会社箱根観光ホテルを吸収合併(パレスホテル箱根)
平成 4 年 6 月	アクシス開発株式会社を立川市に設立
平成 4 年 7 月	パレスホテル箱根全面改装し再オープン
平成 6 年10月	アクシス開発株式会社、パレスホテル立川を開業
平成 9 年 9 月	パレス交通株式会社、ハイヤー業務を国際ハイヤー株式会社に譲渡
平成11年 6 月	株式会社パレスホテル大宮はアクシス開発株式会社より営業を譲り受け、株式会社パレスエンプライズ(現連結子会社)に商号を変更
平成13年12月	グアムパレスコーポレーションの全持株を売却
平成21年 2 月	新ホテル及び貸ビルの建設工事に着手
平成24年 1 月	貸ビル竣工
平成24年 2 月	新ホテル竣工
平成24年 5 月	パレスホテル東京開業
平成30年 1 月	パレスホテル箱根閉館

3 【事業の内容】

当社グループは、連結財務諸表提出会社(以下、当社という。)、子会社3社及び関連会社5社で構成され、ホテル及び料飲施設の運営・不動産賃貸事業及びそれらに附随するサービス等の事業活動を展開しております。

当社グループの事業に係わる位置付け、及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

ホテル事業

当社が営んでいるほか、連結子会社である株式会社パレスエンタープライズとパレスフードサービス株式会社、パレス交通株式会社及び関連会社である株式会社ホテルグランドパレス、国際クリーニング株式会社が営んでおります。

不動産賃貸事業

主に当社が営んでおります。

子会社及び関連会社の主な事業内容は次のとおりであります。

子会社

- 株式会社パレスエンタープライズ
- パレスフードサービス株式会社
- パレス交通株式会社

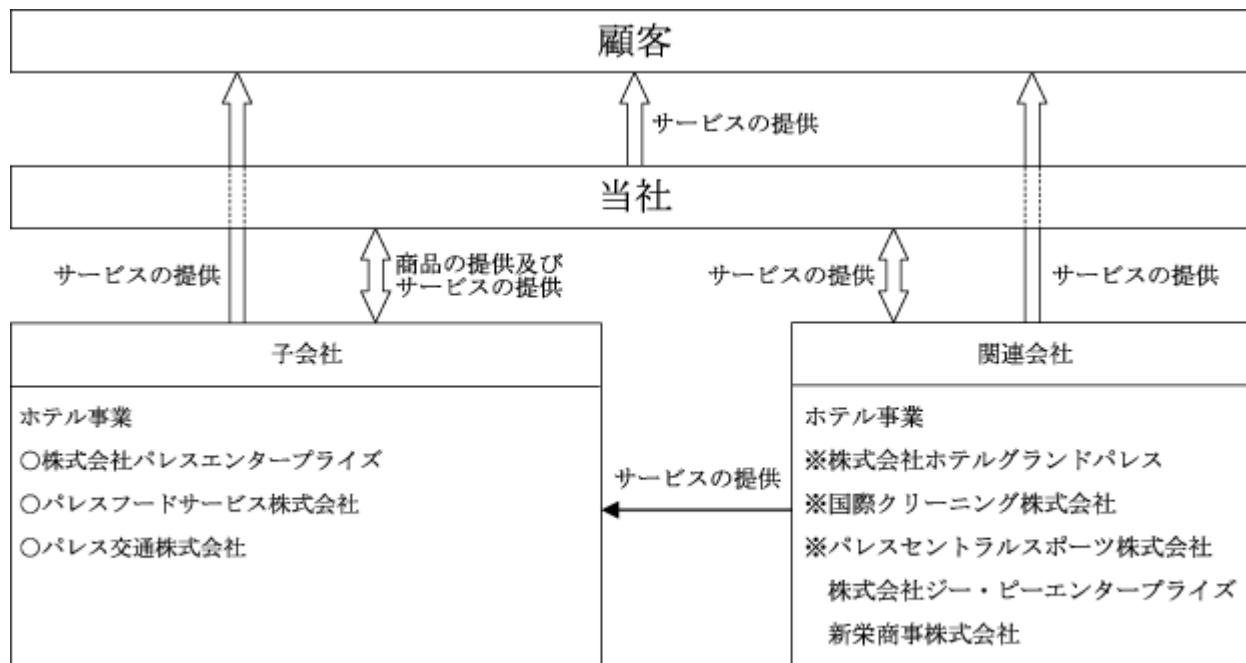
ホテルの運営
レストラン等の運営
駐車場の運営

関連会社

株式会社ホテルグランドパレス
国際クリーニング株式会社
パレスセントラルスポーツ株式会社
株式会社ジー・ピーエンタープライズ
新栄商事株式会社

ホテルの運営
クリーニング業
スポーツクラブの運営
レストランの運営
その他ホテル事業の附帯業務

事業の系統図は、次のとおりであります。



○連結子会社 ※持分法適用関連会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合 (%)	
(連結子会社) ㈱パレスエンタープライズ	さいたま市大宮区	100	ホテル事業	98.7 (3.2)	—	建物等の賃貸 建物等のリース債務保証 借入金に対する債務保証 割賦債務に対する債務保証 役員兼任 4 名
パレスフードサービス㈱	東京都千代田区	10	ホテル事業	99.00 (47.0)	—	役員兼任 6 名
パレス交通㈱	東京都千代田区	50	ホテル事業	100.0 (70.0)	—	駐車場等賃貸 駐車場使用 役員兼任 4 名
(持分法適用関連会社) ㈱ホテルグランドパレス	東京都千代田区	2,500	ホテル事業	35.3	4.2	建物の賃貸 役員兼任 6 名
国際クリーニング㈱	東京都千代田区	30	ホテル事業	42.7	0.5	シーツ類の洗濯の外注 役員兼任 2 名
パレスセントラルスポーツ㈱	さいたま市大宮区	50	ホテル事業	43.0	—	役員兼任 2 名

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 議決権の所有割合欄の()は間接所有割合で内数であります。
3 上記各社は、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出しておりません。
4 ㈱パレスエンタープライズについては、売上高(連結会社相互間の内部売上を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

㈱パレスエンタープライズ	主要な損益情報等	(1) 売上高	6,340百万円
		(2) 経常利益	29 "
		(3) 当期純利益	14 "
		(4) 純資産額	2,269 "
		(5) 総資産額	5,130 "

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ホテル事業	971 (651)
不動産賃貸事業	
合計	971 (651)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(パートタイマー、嘱託社員を含みます。)は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 当社の企業集団は、事業の種類ごとの経営組織形態を有しておらず、同一の従業員が複数の事業に従事しております。

(2) 提出会社の状況

平成30年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(千円)
693 (405)	36歳7ヶ月	12年10ヶ月	4,842

セグメントの名称	従業員数(名)
ホテル事業	693 (405)
不動産賃貸事業	
合計	693 (405)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(パートタイマー、嘱託社員を含みます。)は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社、株式会社パレスエンタープライズ及びパレス交通株式会社は、労使間の理解ある協調と従業員間の互助に基づく従業員互助会を結成しています。

この互助会は労働組合法に基づく組織ではありませんが、結成以来円満に運営されており、全従業員が加入しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

今後の日本経済は、日銀の量的・質的金融緩和の継続や政府による成長戦略の推進等を背景に、緩やかな景気拡大が続くものと思われれます。一方、2019年10月に予定されている消費税率引き上げに加え、米国と中国の貿易摩擦や新興国経済の不安定化或いは英国の欧州連合（EU）離脱の帰趨等が日本経済に及ぼす影響が懸念されます。

このような経営環境の下で当グループは、営業部門の販売強化並びにオフィス賃貸事業における安定的なテナント運営に努めてまいります。また、新たな事業展開として、大阪市北区堂島浜での新ブランドホテルの開発を2018年6月に発表し、2020年初夏の開業を予定して準備を進めております。

なお、「パレスホテル東京」は、世界的に権威のある「フォーブス・トラベルガイド」において「5つ星」の格付けを継続しており、これからも日本を代表する気品と存在感を持ったラグジュアリーホテルとして、国内外のお客様に「世界に通じるおもてなし」を提供して参ります。

一方、経営効率の更なる向上を目指し原価管理の徹底と諸経費の一層の削減に取り組むと共に、災害時のリスク管理体制の強化に加え、「内部統制システムに関する基本方針」に即したコンプライアンス体制の整備や個人情報保護の徹底にも引き続き努めて参ります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財務状況に影響を及ぼす可能性のあるリスクとして、国内外の景気動向の悪化による法人関連需要ならびに個人消費の減少、外資系ホテルを中心とした新規ホテルとの競合激化による収益悪化、大地震、テロ、BSE、SARS、鳥インフルエンザ、ノロウイルスの発生などによる国内外の情勢変化等による来客者数の減少他が考えられます。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次の通りであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害の影響により生産・サービス活動に一時的な停滞が見られましたが、雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の回復や米国を中心とした海外経済の成長等を背景に、企業成績が改善すると共に設備投資にも増加の動きが見られ、景気は緩やかな回復を続けました。

ホテル業界におきましては、国内の旅行・ビジネス関連の宿泊者数は前年並みに留まりましたが、訪日外国人客数は、6年連続して過去最高を更新し年間3,119万人に達しました。こうした状況下、都心部の多くのホテルにおいて、宿泊部門では客室稼働率と客室単価が共に上昇し、レストラン部門も総じて好調に推移しましたが、宴会部門はホテル間で業績に差が見られました。

このような経営環境の下、当グループは、サービス品質の一層の向上に努めると共に内外の顧客層拡大に向けた各種施策に取り組み、「パレスホテル東京」の宿泊・レストラン・パンケットの各部門、及び営業を終了した「パレスホテル箱根」以外の事業部門（ホテル建物外の営業所）はいずれも売上を伸ばしました。また、賃貸部門も好調なオフィスビル市況を背景に増収となりました。

当連結会計年度の売上につきましては、「パレスホテル東京」及び事業部門の売上、これにオフィス賃貸収入等を合わせた当期の総売上高は、「パレスホテル箱根」の営業終了による減収の影響はありましたが、前期比0.8%増の31,494百万円となりました。

一方、経費面におきましては、引き続き徹底した原価管理と諸経費の削減を推し進めた結果、営業利益は前年同期比850百万円増の6,129百万円、経常利益は同3,824百万円増の5,725百万円となりました。経常利益の大幅な増加は、主として前期にシンジケートローンのリファイナンスに関連する費用及びこれに伴う金利スワップの評価損の計2,406百万円を計上したことによるものです。これに固定資産税還付に伴う特別利益、「パレスホテル箱根」の建物解体費用等の特別損失並びに法人税・住民税・事業税及び法人税等調整額を加減算した結果、当期の親会社株主に帰属する当期純利益は2,787百万円増の4,114百万円となりました。

当連結会計年度のセグメントの業績を示すと次のとおりであります。

ホテル事業売上高は前年同期0.7%増の25,127万円となり、営業利益は前年同期と比べ23.8%増の3,489百万円となりました。

不動産賃貸事業売上高は前年同期1.3%増の6,367百万円となり、営業利益は前年同期と比べ6.3%増の3,226百万円となりました。

当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度に比べ2,485百万円減少し、83,877百万円となりました。

当連結会計年度末における負債合計は、6,192百万円減少し、66,226百万円となりました。

当連結会計年度末における純資産合計は、前連結会計年度に比べ3,706百万円増加し、17,650百万円となりました。

b. 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、売上高31,494百万円（前年比263百万円、0.8%増）となりました。

営業利益は6,129百万円（前期比850百万円、16.1%増）となりました。

経常利益は5,725百万円（前期比3,824百万円、201.2%増）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は4,114百万円（前期比2,787百万円、210.1%増）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースでの現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、2,799百万円となり、前

連結会計年度と比べ1,088百万円の増加となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は8,160百万円(前連結会計年度は7,358百万円の資金の獲得)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益5,861百万円、減価償却費による影響額3,308百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は536百万円(前連結会計年度は400百万円の資金の使用)となりました。これは主に有形固定資産取得による支出324百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は6,535百万円(前連結会計年度は7,022百万円の資金の使用)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出4,607百万円、割賦債務の返済による支出1,682百万円によるものであります。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

生産活動は行っておりません。

b. 受注実績

受注による販売活動は行っておりません。

C. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
ホテル事業	25,127	100.7
不動産賃貸事業	6,367	101.3
合計	31,494	100.8

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
三菱地所㈱	6,195	19.8	6,273	19.92

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

d. 主要な事業所の収容能力及び収容実績

() パレスホテル東京

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)				当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)			
	収容能力	収容実績	利用率	1日平均	収容能力	収容実績	利用率	1日平均
客室	105,850室	88,907室	84.0%	243室	105,850室	86,675室	81.9%	237室
食堂	182,865名	535,707名	2.9回転	1,467名	182,865名	620,453名	3.4回転	1,699名
宴会	908,850名	292,778名	0.3回転	802名	908,850名	286,449名	0.3回転	784名

- (注) 1 客室収容能力は客室数を算定基礎としました。
 2 食堂及び宴会収容能力は着席数として算出しました(宴会場についてはディナー形式の着席数としました)。

宿泊客、食事客及び宴会客の利用割合を示すと次のとおりです。

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)			当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)		
	人数 (名)	比率(%)		人数 (名)	比率(%)	
		宿泊	計		宿泊	計
宿泊外人客	90,018	64.6		89,516	65.5	
宿泊邦人客	49,252	35.4		47,160	34.5	
小計	139,270	100.0	14.4	136,676	100.0	13.1
食事客	535,707		55.4	620,453		59.5
宴会客	292,778		30.2	286,449		27.4
合計	967,755	—	100.0	1,043,578	—	100.0

()パレスホテル箱根

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)				当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)			
	収容能力	収容実績	利用率	1日平均	収容能力	収容実績	利用率	1日平均
客室	35,040室	18,453室	52.7%	50室	768室	437室	56.9%	54室
食堂	69,350名	56,116名	0.8回転	153名	1,520名	1,899名	1.2回転	237名
宴会	118,990名	3,335名	0.0回転	9名	2,608名	0名	0.0回転	0名

- (注) 1 客室収容能力は客室数を算定基礎としました。
2 食堂及び宴会収容能力は着席数として算出しました(宴会場についてはディナー形式の着席数としました)。
3 平成30年1月9日にて閉館の為、当連結会計期間は8日間の営業日数としました。

宿泊客、食事客及び宴会客の利用割合を示すと次のとおりです。

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)			当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)		
	人数 (名)	比率(%)		人数 (名)	比率(%)	
		宿泊	計		宿泊	計
宿泊外人客	15,476	47.7		42	5.3	
宿泊邦人客	16,962	52.3		750	94.7	
小計	32,438	100.0	35.3	792	100.0	29.4
食事客	56,116		61.1	1,899		70.6
宴会客	3,335		3.6	0		0.0
合計	91,889	—	100.0	2,691	—	100.0

()パレスホテル大宮

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)				当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)			
	収容能力	収容実績	利用率	1日平均	収容能力	収容実績	利用率	1日平均
客室	74,460室	63,409室	85.2%	173室	74,460室	62,615室	84.1%	171室
食堂	139,482名	295,910名	2.1回転	810名	153,300名	287,848名	1.9回転	788名
宴会	277,765名	156,183名	0.6回転	427名	277,765名	146,125名	0.5回転	400名

(注) 1 客室収容能力は客室数を算定基礎としました。

2 食堂及び宴会収容能力は着席数として算出しました(宴会場についてはディナー形式の着席数としました)。

3 前連結会計期間中に1階レストランの改装工事を行ったため、当連結会計年度は食堂の収容能力が増加しております。

宿泊客、食事客及び宴会客の利用割合を示すと次のとおりです。

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)			当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)		
	人数 (名)	比率(%)		人数 (名)	比率(%)	
		宿泊	計		宿泊	計
宿泊外人客	10,628	12.6		10,345	12.4	
宿泊邦人客	73,927	87.4		73,361	87.6	
小計	84,555	100.0	15.8	83,706	100.0	16.2
食事客	295,910		55.1	287,848		55.6
宴会客	156,183		29.1	146,125		28.2
合計	536,648	—	100.0	517,679	—	100.0

()パレスホテル立川

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)				当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)			
	収容能力	収容実績	利用率	1日平均	収容能力	収容実績	利用率	1日平均
客室	86,870室	65,550室	75.5%	179室	86,870室	68,623室	79.0%	188室
食堂	166,440名	217,221名	1.3回転	595名	166,440名	208,231名	1.3回転	570名
宴会	438,000名	142,947名	0.3回転	391名	438,000名	139,051名	0.3回転	380名

(注) 1 客室収容能力は客室数を算定基礎としました。

2 食堂及び宴会収容能力は着席数として算出しました(宴会場についてはディナー形式の着席数としました)。

宿泊客、食事客及び宴会客の利用割合を示すと次のとおりです。

区分	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)			当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)		
	人数 (名)	比率(%)		人数 (名)	比率(%)	
		宿泊	計		宿泊	計
宿泊外人客	18,544	22.9		15,414	17.7	
宿泊邦人客	62,423	77.1		71,665	82.3	
小計	80,967	100.0	18.4	87,079	100.0	20.1
食事客	217,221		49.2	208,231		47.9
宴会客	142,947		32.4	139,051		32.0
合計	441,135	—	100.0	434,361	—	100.0

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、財政状態、経営成績、キャッシュ・フローの状況に関し、一般に公正妥当と認められた会計基準に準拠しております。

この連結財務諸表の作成にあたり、決算日における資産・負債の報告数値ならびに報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積りは、貸倒引当金、賞与引当金、退職給付に係る負債等であり、その見積りについては、過去実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき行っていますが、見積り特有の不確実性があるため実際の結果とは異なることもあります。

当連結会計年度の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

a. 財政状態

当連結会計年度末における資産合計は83,877百万円となり、前連結会計年度末と比べて2,485百万円減少しました。うち流動資産は746百万円の増加、固定資産は3,232百万円の減少となりました。

固定資産のうち、有形固定資産は2,849百万円、無形固定資産は66百万円減少し、この主な要因は減価償却費によるものであります。

当連結会計年度末における負債合計は66,226百万円となり、前連結会計年度末と比べて6,192百万円減少しました。この減少の主な要因は、借入金の返済及び割賦未払金の支払によるものであります。

当連結会計年度末における純資産合計は17,650百万円となり、前連結会計年度末と比べて3,706百万円増加しました。この増加の主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

b. 経営成績

当連結会計年度の売上高は前年同期と比べ0.8%増の31,494百万円、営業費用は前年同期と比べ2.3%減の25,364百万円となり、営業利益は前年同期と比べ16.1%増の6,129百万円となりました。

経常利益は前年同期と比べ201.2%増の5,725百万円となりました。この主な要因は、前年にシンジケートローンのリファイナンスに伴う金利スワップ評価損を計上したことによるものであります。

税金等調整前当期純利益は、前年同期と比べ214.8%増の5,861百万円となりました。

また、法人税等及び法人税等調整額の合計が前年同期と比べ228.7%増の1,747百万円となり、当連結会計年度において親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期と比べ210.1%増の4,114百万円となりました。

c. キャッシュ・フローの状況

「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュフローの状況」に記載のとおりであります。

(3) 資本の財源及び資金の流動性

当社グループでは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。短期運転資金につきましては原則、自己資金にて賄うこととしており、十分な資金確保のために売上の増進、経費の低減及び売掛金の早期回収等に努めております。

長期運転資金につきましては、ホテルの館内諸施設改修に伴う設備資金及び新規事業の展開に関わる資金であります。金融機関からの長期借入を基本としており、安定的な資金の確保に努めております。

(4) 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

当社グループが重要視している指標は、ホテル業界特有な指標として客室稼働率、客室単価やレストランやバンケットの回転率、客単価、坪あたり売上等であります。損益関連では、営業利益率及び経常利益率、財務面では有利子負債対総資産残高比率の改善を目指して参ります。

4 【経営上の重要な契約等】

(1) 定期建物賃貸借契約（マスターリース契約）

当社は、オフィス棟及び地下部を転借人に転貸することを目的として、三菱地所株式会社と、定期建物賃貸借契約（マスターリース契約）を締結しております。

契約締結日	平成24年 1 月16日
賃貸面積	66,850m ²
契約期限	平成39年 4 月30日

(2) 家具・備品等リース契約

当社は、興銀リース株式会社以下 4 社との間で、ホテル家具・備品等のリース契約を締結しております。

契約締結日	平成24年 3 月30日
契約期限	平成32年 4 月30日
契約金額	4,648百万円

(3) 設備工事関連代金の割賦販売契約

当社は、興銀リース株式会社以下 4 社との間で、設備工事関連代金の割賦販売契約を締結しております。

契約締結日	平成24年 5 月17日
契約期限	平成31年 5 月31日
契約金額	8,120百万円

(4) シンジケーション方式タームローン（シンジケートローン）契約によるリファイナンスについて

当社は、既存のシンジケートローンのリファイナンスとして、金融機関 2 社からなるシンジケート団と、融資契約（シンジケートローン）を締結しております。

契約年月日	平成26年 3 月28日
契約金額	3,400百万円
実行日	平成26年 9 月30日
契約期限	平成36年 9 月30日

(5) シンジケーション方式タームローン（シンジケートローン）契約によるリファイナンスについて

当社は、既存のシンジケートローンのリファイナンスとして、株式会社みずほ銀行、株式会社三菱UFJ銀行を主幹事とする金融機関17社からなるシンジケート団と、融資契約（シンジケートローン）を締結しております。

契約年月日	平成29年12月27日
契約金額	50,905百万円
実行日	平成29年12月29日
契約期限	平成36年 9 月30日

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループの当連結会計年度の設備投資については、ホテルとして内外施設環境への断続的、計画的投資を推進し、さらに品質を向上させ、競争力を高めるための投資を行っております。当連結会計年度の設備投資額は有形固定資産が381百万円、無形固定資産が77百万円であります。必要資金については借入金及び手元資金を充当しております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成30年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員 数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
パレスホテル 本社 (東京都千代田 区)	ホテル 事業	ホテル 設備	25,999	85	7,246 (9,881)	1,470	3,962	38,764	693 〔404〕
	不動産賃 貸事業 1	賃貸設 備	21,378	32	9,269 (8,230)	—	22	30,702	
	消去又は 全社 2	本 社 機 能	58	0	18 (13)	—	182	259	
パレスホテル 箱根 (神奈川県足柄 下郡箱根町)	ホテル 事業	ホテル 設備	144	0	672 (11,498)	—	6	817	0 〔1〕

- (注) 1 1の事業所は、(株)パレスエンタープライズ大宮事業所(連結子会社)に転貸している建物17千㎡を連結会社以外から賃借しております。
- 2 2の消去又は全社は、管理部門に係る資産、公共施設負担金を含んでおります。
- 3 従業員数の〔 〕には、臨時従業員数を外数で記載しております。
- 4 当社の企業集団は、事業の種類ごとの経営組織形態を有しておらず、同一の従業員が複数の事業に従事しております。

(2) 国内子会社

平成30年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員 数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具 及び備品	その他	合計	
(株)パレスエ ンタープラ イズ	パレスホテル 大宮 (埼玉県さいた ま市大宮区)	ホテル 事業	ホテル 設備	1,182	42	122	6	1,354	158 〔126〕
	パレスホテル 立川 (東京都立川 市) 1	ホテル 事業	ホテル 設備	2,041	1	95	2	2,140	117 〔106〕
パレスフー ドサービス (株)	本社 (東京都千代 田区)	ホテル 事業	営 業 設 備	17	—	0	0	18	3 〔14〕

- (注) 1 1の事業所は、建物25千㎡を連結会社以外から賃借しております。
- 2 従業員数の〔 〕には、臨時従業員数を外数で記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,000,000
計	4,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年3月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,000,000	2,000,000	非上場・非登録に つき該当なし	単元株式数は100株であります
計	2,000,000	2,000,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
昭和55年3月1日	400,000	2,000,000	200	1,000	1	1

(注) 1 有償 株主割当 1 : 0.25 396,187株
発行価格 500円
資本組入額 500円
第三者割当 3,813株
発行価格 1,000円
資本組入額 500円

2 最近5事業年度における発行済株式総数、資本金及び資本準備金の増減がないため、直近の増減額及び残高を記載しております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年12月31日現在

平成30年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	19	—	21	1	—	174	215	—
所有株式数 (単元)	—	7,821	—	10,621	30	—	1,402	19,874	12,600
所有株式数 の割合(%)	—	39.35	—	53.44	0.15	—	7.05	100.00	—

(6) 【大株主の状況】

平成30年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
サントリーホールディングス株式会社	大阪市北区堂島浜2-1-40	349.1	17.46
阪急阪神ホールディングス株式会社	大阪市北区芝田1-16-1	133.0	6.65
日本生命保険相互会社	千代田区丸の内1-6-6 日本生命保険相互会社証券管理部内	100.0	5.00
株式会社みずほ銀行	千代田区大手町1-5-5	98.5	4.93
株式会社三菱UFJ銀行	千代田区丸の内2-7-1	98.5	4.93
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	新宿区西新宿1-26-1	93.7	4.69
サッポロビール株式会社	渋谷区恵比寿4-20-1	88.0	4.40
株式会社ホテルグランドパレス	千代田区飯田橋1-1-1	84.3	4.22
日本郵船株式会社	千代田区丸の内2-3-2	83.2	4.16
明治安田生命保険相互会社	千代田区丸の内2-1-1	81.5	4.08
計	-	1,209.9	60.50

(注) 株式会社ホテルグランドパレス(平成30年12月31日現在当社が35.31%株式を所有)が所有している上記株式については、会社法施行規則第67条の規定により議決権の行使が制限されております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(相互保有株式) 普通株式 94,300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,893,100	18,931	—
単元未満株式	普通株式 12,600	—	—
発行済株式総数	2,000,000	—	—
総株主の議決権	—	18,931	—

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(相互保有株式) 株式会社ホテルグランドパレス	千代田区飯田橋1-1-1	84,300	—	84,300	4.22
国際クリーニング株式会社	千代田区丸の内1-1-1	10,000	—	10,000	0.50
計	—	94,300	—	94,300	4.72

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、配当政策につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のための必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を実施していくことを基本方針としております。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。なお、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行なうことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、当期の業績、今後の業績見通しを総合的に勘案のうえ、1株75円としております。

内部留保資金につきましては、将来の事業展開に役立てるために有効投資してまいりたいと考えております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成31年3月25日 定時株主総会決議	150	75

(配当制限)

当社は、平成26年3月28日付けおよび平成29年12月27日付けで金融機関よりシンジケーション方式タームローン（シンジケートローン）として資金を調達しており、この借入金については以下の財務制限条約が付されております。

(1) 各年度の決算期の末日および中間期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を直前の決算期（含む中間期）比75%以上に維持すること。

(2) 各年度の決算期の末日および中間期の末日における単体の貸借対照表上の純資産の部の金額を直前の決算期（含む中間期）比75%以上に維持すること。

4 【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

5 【役員の状況】

男性 18名 女性 0名 (役員のうち女性の比率 0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		小 林 節	昭和20年 8月24日生	昭和44年 7月 平成 2年 6月 平成 3年 3月 平成 3年 3月 平成 5年 3月 平成 7年 3月 平成 7年 3月 平成 8年 2月 平成 8年 7月 平成 9年 3月 平成 9年 6月 平成13年 3月 平成22年 2月 平成25年 2月 平成25年 2月 平成26年 3月	株式会社日本興業銀行入行 同行国際業務部参事役 当社取締役 当社経理部長委嘱 当社常務取締役 当社専務取締役 株式会社パレスホテル大宮(現 株式会 社パレスエンタープライズ)取締役(現 在) パレスフードサービス株式会社代表取 締役 パレス交通株式会社取締役 株式会社ホテルグランドパレス取締役 (現在) 株式会社さいたまアリーナ取締役 当社代表取締役社長 パレス交通株式会社代表取締役 パレスフードサービス株式会社取締役 (現在) パレス交通株式会社取締役(現在) 当社代表取締役会長(現在)	(注1)	22.0
代表取締役 社長		荒 牧 幹 人	昭和23年 7月20日生	昭和47年 4月 平成13年 6月 平成14年 6月 平成17年 3月 平成17年 3月 平成17年 3月 平成17年 3月 平成19年 3月 平成26年 3月	株式会社富士銀行入行 同行執行役員大阪支店長 みずほ総合研究所株式会社専務取締役 株式会社ホテルグランドパレス取締役 (現在) 当社常務取締役 株式会社パレスエンタープライズ取締 役(現在) パレスフードサービス株式会社取締役 (現在) 当社専務取締役 当社代表取締役社長(現在)	(注1)	3.0
専務取締役	ヒューマンリ ソース部長	古 池 嘉 章	昭和27年 9月27日生	昭和51年 4月 平成12年 6月 平成14年 4月 平成19年 6月 平成21年 4月 平成22年 3月 平成25年 2月 平成25年 2月 平成29年 3月 平成30年 9月	株式会社日本興業銀行入行 同行金融グループ企画部長 株式会社みずほコーポレート銀行資本 市場部長 チッソ株式会社常務執行役員 みずほスタッフ株式会社専務取締役 当社常務取締役 パレスフードサービス株式会社代表取 締役(現在) パレス交通株式会社代表取締役(現在) 当社専務取締役(現在) 当社ヒューマンリソース部長委嘱(現 在)	(注1)	1.0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
専務取締役	事業開発部長	渡 部 政 和	昭和33年10月8日生	昭和56年4月 平成12年6月 平成14年6月 平成18年6月 平成20年4月 平成23年1月 平成25年3月 平成25年3月 平成25年3月 平成26年2月 平成28年9月 平成29年3月	株式会社三和銀行入行 同行板橋支店長 株式会社ＵＦＪ銀行川崎支店長 株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行三鷹支店長 同行札幌支社長 株式会社ジャルカード取締役 当社常務取締役 株式会社パレスエンタープライズ取締役(現在) 株式会社ホテルグランドパレス取締役(現在) パレスフードサービス株式会社取締役(現在) 当社事業開発部長委嘱(現在) 当社専務取締役(現在)	(注1)	1.0
常務取締役	パレスホテル 東京 総支配人 レストラン 部長	渡 部 勝	昭和39年3月10日生	昭和62年4月 平成17年10月 平成19年4月 平成22年10月 平成24年2月 平成24年3月 平成24年3月 平成29年3月 平成30年9月	当社入社 当社マーケティング部セールス三課課長 当社プロジェクト室課長 当社開業準備室副室長 当社パレスホテル東京総支配人 当社取締役 当社パレスホテル東京総支配人委嘱(現在) 当社常務取締役(現在) 当社レストラン部長委嘱(現在)	(注1)	1.0
常務取締役	経営企画室長	吉 原 大 介	昭和53年1月28日生	平成23年12月 平成24年2月 平成26年10月 平成28年5月 平成28年7月 平成29年1月 平成29年3月 平成29年3月 平成30年3月	当社入社 当社セールス＆マーケティング部副部長 当社経理部副部長 米国コーネル大学院卒業 当社パレスホテル東京副総支配人 当社経営企画室長 当社取締役 当社経営企画室長委嘱(現在) 当社常務取締役(現在)	(注1)	19.3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		佐 治 信 忠	昭和20年11月25日生	平成2年3月 平成12年9月 平成13年3月 平成13年4月 平成14年3月 平成15年3月 平成15年3月 平成21年2月 平成26年10月	サントリー株式会社代表取締役副社長 サントリーフーズ株式会社代表取締役 会長 サントリー株式会社代表取締役社長 サントリーインターナショナル取締役 会長 サントリー株式会社代表取締役会長 代表取締役社長 株式会社ホテルグランドパレス取締役 (現在) 当社取締役(現在) サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長 代表取締役社長 同社代表取締役会長(現在)	(注1)	なし
取締役		角 和 夫	昭和24年4月19日生	平成12年6月 平成14年6月 平成15年6月 平成17年3月 平成17年3月 平成17年4月 平成17年4月 平成18年10月 平成26年3月 平成29年6月	阪急電鉄株式会社取締役鉄道事業本部 長 同社常務取締役 同社代表取締役社長 株式会社ホテルグランドパレス取締役 (現在) 当社取締役(現在) 阪急ホールディングス株式会社代表取 締役社長 株式会社阪急阪神ホテルズ取締役(現 在) 阪急阪神ホールディングス株式会社代 表取締役社長 阪急電鉄株式会社代表取締役会長(現 在) 阪急阪神ホールディングス株式会社代 表取締役会長 グループCEO(現在)	(注1)	なし
取締役		木 村 恵 司	昭和22年2月21日生	平成12年6月 平成15年4月 平成16年6月 平成17年6月 平成23年4月 平成27年6月 平成28年2月 平成28年6月 平成29年3月 平成29年4月 平成29年6月 平成29年6月	三菱地所株式会社取締役 同社取締役兼常務執行役員 同社代表取締役専務執行役員 同社代表取締役社長 同社代表取締役会長 株式会社ロイヤルパークホテル社外取 締役(現在) 国家公安委員会 委員(現在) 三菱地所株式会社取締役会長 当社取締役(現在) 三菱地所株式会社取締役 同社特別顧問(現在) 一般社団法人不動産協会会長(現在)	(注1)	なし
取締役		宮 原 耕 治	昭和20年12月3日生	平成12年6月 平成14年6月 平成15年6月 平成16年4月 平成21年4月 平成27年4月 平成27年6月 平成31年3月	日本郵船株式会社取締役 同社常務取締役経営委員 同社代表取締役専務取締役経営委員 同社代表取締役社長経営委員 同社代表取締役会長・会長経営委員 同社取締役・相談役 同社相談役(現在) 当社取締役(現在)	(注1)	なし

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		海 保 邦 男	昭和24年 7月19日生	昭和48年 4月 平成15年 3月 平成21年 3月 平成22年 1月 平成23年 3月 平成27年 3月 平成27年 3月	当社入社 当社販売促進部部長 株式会社パレスエンタープライズ取締役 パレスホテル立川営業担当支配人 同社取締役パレスホテル立川副総支配人 兼営業担当支配人兼販売促進支配人 同社常務取締役パレスホテル立川総支配人 同社代表取締役社長(現在) 当社取締役(現在)	(注1)	0.5
取締役	事業部長	三 木 教 義	昭和28年 5月30日生	昭和52年 4月 平成12年11月 平成16年10月 平成17年10月 平成21年 7月 平成25年 2月 平成25年 3月 平成25年 3月	当社入社 当社宴会予約課支配人 当社人事部次長 当社人事部部長 当社事業部部長 パレスフードサービス株式会社専務取締役(現在) 当社取締役(現在) 当社事業部長委嘱(現在)	(注1)	0.5
取締役	セールス & マーケ ティング部長	早 川 毅	昭和34年 8月21日生	昭和55年 4月 平成20年 5月 平成22年 1月 平成24年 2月 平成27年 3月 平成27年 3月	当社入社 当社マーケティング部次長 当社マーケティング部部長 当社セールス&マーケティング部部長 当社取締役(現在) 当社セールス&マーケティング部長委嘱(現在)	(注1)	0.5
取締役	調理部 総料理長	齋 藤 正 敏	昭和34年 5月13日生	平成22年 4月 平成24年 2月 平成25年 3月 平成29年 3月 平成29年 3月	当社入社調理部スーシェフ 当社調理部副総料理長 当社調理部総料理長 当社取締役(現在) 当社調理部総料理長委嘱(現在)	(注1)	0.5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		大 屋 愛一郎	昭和29年 6 月 7 日生	昭和52年 4 月 平成13年10月 平成15年 9 月 平成17年 3 月 平成22年 3 月 平成22年 3 月 平成25年 2 月 平成31年 2 月 平成31年 2 月 平成31年 3 月 平成31年 3 月	当社入社 当社経理課課長 当社経理部次長 当社経理部部长 当社取締役 当社経理部長委嘱 パレス交通株式会社取締役 パレス交通株式会社監査役(現在) パレスフードサービス株式会社監査役 (現在) 当社常勤監査役(現在) 株式会社パレスエンタープライズ監査 役(現在)	(注2)	0.5
監査役		松 岡 功	昭和 9 年12月18日生	昭和43年 5 月 昭和45年 3 月 昭和52年 5 月 昭和58年 3 月 平成 6 年 3 月 平成 7 年 5 月 平成21年 5 月	東宝不動産株式会社取締役 東宝株式会社取締役 同社代表取締役社長 当社監査役(現在) 株式会社ホテルグランドパレス監査役 (現在) 東宝株式会社代表取締役会長 同社名誉会長(現在)	(注2)	なし
監査役		櫻 田 謙 悟	昭和31年 2 月11日生	平成19年 6 月 平成22年 4 月 平成22年 7 月 平成24年 4 月 平成26年 9 月 平成27年 7 月 平成28年 4 月 平成28年10月 平成29年12月 平成30年 3 月	株式会社損害保険ジャパン取締役常務 執行役員 N K S Jホールディングス株式会社取 締役常務執行役員 株式会社損害保険ジャパン代表取締役 社長社長執行役員 N K S Jホールディングス株式会社代 表取締役社長社長執行役員 損害保険ジャパン日本興亜株式会社代 表取締役会長会長執行役員 損保ジャパン日本興亜ホールディング ス株式会社グループC E O代表取締役 社長社長執行役員 損害保険ジャパン日本興亜株式会社取 締役会長 同社取締役(現在) S O M P Oホールディングス株式会社 グループC E O代表取締役社長社長執 行役員(現在) 当社仮監査役 当社監査役(現在)	(注2)	なし
監査役		本 多 秀 喜	昭和17年 3 月23日生	昭和36年 4 月 平成 5 年 3 月 平成 9 年 3 月 平成 9 年 3 月 平成13年 3 月 平成13年 3 月 平成16年 2 月 平成17年 2 月 平成17年 3 月 平成22年 3 月	当社入社 当社経理部部长 当社取締役 当社経理部長委嘱 株式会社パレスエンタープライズ監査 役 当社経理部長兼資材部長委嘱 パレスフードサービス株式会社監査役 パレス交通株式会社監査役 当社常勤監査役 当社監査役(現在)	(注2)	0.5
計							50.3

- (注) 1 平成30年12月期にかかる定時株主総会の終結時から平成32年12月期にかかる定時株主総会終結時までであります。
- 2 平成27年12月期にかかる定時株主総会の終結時から平成31年12月期にかかる定時株主総会終結時までであります。
- 3 取締役のうち佐治信忠、角和夫、木村恵司、宮原耕治の各氏は、社外取締役であります。

4 監査役のうち松岡功、櫻田謙悟の両氏は、社外監査役であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社グループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主重視を第一義に捉え、経営の透明性とコーポレート・ガバナンスが有効に機能する体制を構築しております。

(コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況)

(1) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況並びにリスク管理体制の整備の状況

当社の取締役会は提出日現在、社内取締役10名、社外取締役4名の合計14名で構成されており、定例の取締役会のほか必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに経営を監督しております。又、取締役会を補完する形で会長、社長、専務、常務からなる常務会を随時開催し、経営上の重要案件を審議、検討しております。

当社は監査役制度を採用しております。監査役は提出日現在4名であり、うち2名は社外監査役であります。個々の監査役は独立した立場でその職務権限を行使するとともに、監査役会を通じて効率的な監査を遂行し、経営の健全性を確保しております。

なお、当社監査役と監査法人は定期的に情報共有の場を持っており、各々の監査方針や発生した問題について情報交換を実施しております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
業務執行社員	角 田 伸理之 廣 瀬 美智代	EY新日本有限責任監査法人

継続監査年数については全員7年以内であるため記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士4名 その他8名

社外取締役及び社外監査役全員との間には、特別な利害関係はございません。

当社は、社長を委員長とする「統合リスク管理委員会」を設置し、次の分野におけるリスク管理を一元的に集中管理しております。

ア．災害に関するリスク（火災、地震、台風等の自然災害等）

イ．犯罪に関するリスク（テロ、犯罪、反社会的勢力への対応等）

ウ．食品衛生管理・感染症等に関するリスク（食中毒・ノロウイルス、インフルエンザ等の疾病）

エ．食品安全管理に関するリスク（食材メニュー表示、食品アレルギー等）

オ．情報管理に関するリスク（顧客・個人情報、機密情報の漏えい等）

カ．コンプライアンスに関するリスク（法令遵守違反等）

また「統合リスク管理委員会」のもと、各分野のリスク対応について必要に応じて委員会を設置し、それぞれの規定またはマニュアルに則ったリスク管理の徹底を図るとともに、リスク発生時には必要に応じて緊急対策本部を設置し、迅速な対応を行い損害を最小限に食い止める対応を整えております。

(2) 役員報酬の内容

取締役の年間報酬総額 201百万円(うち社外取締役4名 12百万円)

監査役の年間報酬総額 22百万円(うち社外監査役2名 6百万円)

年間報酬総額には、当事業年度に係る役員退職慰労引当金繰入額が含まれております。

(3) 取締役の定数

当社の取締役は18名以内とする旨定款に定めております。

(4) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもっておこなう旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(5) 中間配当

当社は、剰余金の配当等を必要に応じ柔軟に行えるようにするため、剰余金の配当等に関する会社法第454条第5項に規定により、取締役会決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	28	—	29	—
連結子会社	—	—	—	—
計	28	—	29	—

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の規模、業務の特性、監査日数等総合的に勘案し決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人となっております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するため以下のような特段の取組みを行っております。

会計基準等の内容を適正に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、監査法人等の行う研修への参加や会計専門誌の定期購読等を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,786	2,874
売掛金	3,361	3,037
たな卸資産	² 360	² 348
繰延税金資産	117	143
その他	245	213
流動資産合計	5,871	6,618
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	74,188	72,016
減価償却累計額	21,010	21,194
建物及び構築物（純額）	^{3, 4} 53,177	^{3, 4} 50,822
機械装置及び運搬具	421	458
減価償却累計額	271	296
機械装置及び運搬具（純額）	150	161
工具、器具及び備品	3,351	3,276
減価償却累計額	2,780	2,726
工具、器具及び備品（純額）	571	549
土地	³ 17,207	³ 17,207
リース資産	4,276	4,276
減価償却累計額	2,432	2,862
リース資産（純額）	1,844	1,414
建設仮勘定	177	123
有形固定資産合計	73,128	70,279
無形固定資産		
ソフトウェア	9	77
公共施設負担金	3,750	3,637
リース資産	81	59
その他	4	4
無形固定資産合計	3,845	3,778
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 1,187	¹ 1,136
差入保証金	1,042	1,162
繰延税金資産	745	520
その他	541	382
投資その他の資産合計	3,517	3,201
固定資産合計	80,491	77,259
資産合計	86,363	83,877

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	824	763
短期借入金	200	—
1年内返済予定の長期借入金	3 2,785	3 2,558
リース債務	474	495
割賦未払金	4 1,682	4 622
未払金	1,315	1,519
未払費用	363	383
未払法人税等	774	1,108
未払消費税等	351	378
前受金	417	414
賞与引当金	121	137
その他	393	457
流動負債合計	9,704	8,838
固定負債		
長期借入金	3 52,235	3 48,404
リース債務	1,531	1,035
長期割賦未払金	4 687	4 64
退職給付に係る負債	263	263
役員退職慰労引当金	558	596
長期預り保証金	5,260	5,265
金利スワップ	1,970	1,746
その他	209	11
固定負債合計	62,714	57,388
負債合計	72,419	66,226
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	60	60
利益剰余金	12,462	16,456
自己株式	97	105
株主資本合計	13,424	17,410
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	145	84
退職給付に係る調整累計額	244	26
その他の包括利益累計額合計	390	111
非支配株主持分	129	128
純資産合計	13,944	17,650
負債純資産合計	86,363	83,877

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
売上高	31,230	31,494
営業費用		
料理飲料材料費	3,108	3,129
その他営業費用	¹ 22,843	¹ 22,234
営業費用合計	25,952	25,364
営業利益	5,278	6,129
営業外収益		
金利スワップ評価益	-	223
受取配当金	10	11
持分法による投資利益	57	56
その他	54	48
営業外収益合計	123	339
営業外費用		
金利スワップ評価損	1,970	-
支払利息	1,084	717
支払手数料	436	-
その他	11	26
営業外費用合計	3,501	744
経常利益	1,900	5,725
特別利益		
固定資産税還付金	-	440
有価証券売却益	3	-
特別利益合計	3	440
特別損失		
建物解体費用	25	304
固定資産除却損	12	-
投資有価証券評価損	5	-
特別損失合計	42	304
税金等調整前当期純利益	1,862	5,861
法人税、住民税及び事業税	959	1,520
法人税等調整額	428	226
法人税等合計	531	1,747
当期純利益	1,330	4,114
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失（ ）	3	0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,326	4,114

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
当期純利益	1,330	4,114
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33	67
退職給付に係る調整額	183	218
持分法適用会社に対する持分相当額	1	1
その他の包括利益合計	1 218	1 286
包括利益	1,549	3,827
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,545	3,827
非支配株主に係る包括利益	3	0

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株 主持分	純資産合 計
	資本金	資本剰余 金	利益剰余 金	自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券 評価差額 金	退職給付 に係る 調整累計 額	その他の 包括利益 累計額合 計		
当期首残高	1,000	51	11,234	125	12,160	110	60	171	110	12,443
当期変動額										
剰余金の配当			98		98					98
親会社株主に帰属す る当期純利益			1,326		1,326					1,326
自己株式の取得				11	11					11
非支配株主との取引 に係る 親会社の持分変動		8		38	46					46
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）						34	183	218	18	236
当期変動額合計		8	1,227	27	1,263	34	183	218	18	1,500
当期末残高	1,000	60	12,462	97	13,424	145	244	390	129	13,944

当連結会計年度(自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株 主持分	純資産合 計
	資本金	資本剰余 金	利益剰余 金	自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券 評価差額 金	退職給付 に係る 調整累計 額	その他の 包括利益 累計額合 計		
当期首残高	1,000	60	12,462	97	13,424	145	244	390	129	13,944
当期変動額										
剰余金の配当			120		120					120
親会社株主に帰属す る当期純利益			4,114		4,114					4,114
非支配株主との取引 に係る 親会社の持分変動				7	7					7
株主資本以外の項目 の当 期 変 動 額 (純 額)						61	218	279	0	279
当期変動額合計			3,994	7	3,986	61	218	279	0	3,706
当期末残高	1,000	60	16,456	105	17,410	84	26	111	128	17,650

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,862	5,861
減価償却費	3,836	3,308
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	23	143
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	36	38
賞与引当金の増減額(は減少)	14	15
持分法による投資損益(は益)	57	56
受取利息及び受取配当金	10	11
支払利息	1,520	717
固定資産税還付金	-	440
金利スワップ評価損益(は益)	1,970	223
建物解体費用	25	304
売上債権の増減額(は増加)	337	324
たな卸資産の増減額(は増加)	7	11
仕入債務の増減額(は減少)	17	103
長期預り保証金の増減額(は減少)	16	4
その他	43	29
小計	9,474	9,637
利息及び配当金の受取額	20	21
固定資産税還付額	-	440
利息の支払額	1,519	721
法人税等の支払額	616	1,217
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,358	8,160
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	100	100
定期預金の払戻による収入	100	100
有形固定資産の取得による支出	417	324
有価証券の売却による収入	18	-
差入保証金の差入による支出	0	118
無形固定資産の取得による支出	1	77
有形固定資産の除却による支出	-	15
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	400	536
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	100	200
長期借入れによる収入	51,505	550
長期借入金の返済による支出	56,075	4,607
割賦買戻契約付売却による収入	64	-
割賦債務の返済による支出	1,802	1,682
リース債務の返済による支出	563	474
自己株式の売却による収入	48	-
配当金の支払額	98	120
その他	-	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,022	6,535
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	64	1,088
現金及び現金同等物の期首残高	1,775	1,711
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,711	1 2,799

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

(株)パレスエンタープライズ

パレスフードサービス(株)

パレス交通(株)

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 3社

持分法を適用した会社の名称

(株)ホテルグランドパレス

国際クリーニング(株)

パレスセントラルスポーツ(株)

(2) 持分法を適用しない関連会社の名称

新栄商事(株)

(株)ジー・ピーエンタープライズ

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続きについて特に記載する必要があると認められる事項

持分法適用会社のうち国際クリーニング(株)は、決算日が連結決算日と異なるため、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し売却原価は主として移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

機械装置及び運搬具 5～17年

工具、器具及び備品 3～20年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ソフトウェア(自社利用分) 5年

公共施設負担金 38年

リース資産

所有権移転外ファイナンスリース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（９年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

・ヘッジ手段

デリバティブ取引(金利スワップ取引)

・ヘッジ対象

借入金利息

ヘッジ方針

将来の金利変動によるリスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を導入しております。

その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

デリバティブ取引は信用リスクと市場リスクを有しておりますが、信用リスクについては、取引相手として信用度の高い金融機関に限定し、また、市場リスクについては、目的をヘッジ取引に限定することにより、リスクの回避を行っております。

(6) のれん償却方法及び償却期間

５年間で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から３ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

（表示方法の変更）

（連結貸借対照表関係）

前連結会計年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めていた「繰延税金資産」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた1,287百万円は、「繰延税金資産」745百万円、「その他」541百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
投資有価証券(株式)	716百万円	761百万円

2 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
商品及び製品	5百万円	3百万円
原材料及び貯蔵品	355 "	344 "
計	360 "	348 "

3 担保資産

担保に供している資産及び担保付債務は、次のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
土地	15,130百万円	15,130百万円
建物	36,627 "	35,799 "
合 計	51,757 "	50,929 "

担保付債務

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
長期借入金 (一年以内に返済予定の長期借入金を含む)	53,450百万円	49,400百万円

4 割賦買戻契約により所有権が売主に留保されたもの

(1) 所有権留保資産

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
建物及び構築物	6,038百万円	5,259百万円

(2) 割賦未払金残高

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
流動負債「割賦未払金」	1,682百万円	622百万円
固定負債「長期割賦未払金」	687 "	64 "
合 計	2,369 "	687 "

(連結損益計算書関係)

1 その他営業費用の主なもの

	前連結会計年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
給与手当	6,591百万円	6,513百万円
賞与引当金繰入額	121 "	137 "
退職給付費用	189 "	110 "
役員退職慰労引当金繰入額	37 "	39 "
福利厚生費	1,110 "	1,141 "
地代家賃	1,217 "	1,217 "
減価償却費	3,836 "	3,308 "

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	48百万円	96百万円
組替調整額	— "	— "
税効果調整前	48 "	96 "
税効果額	14 "	29 "
その他有価証券評価差額金	33 "	67 "
退職給付に係る調整額		
当期発生額	233百万円	261百万円
組替調整額	31 "	52 "
税効果調整前	265 "	314 "
税効果額	81 "	96 "
退職給付に係る調整額	183 "	218 "
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	1百万円	1百万円
その他の包括利益合計	218 "	286 "

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成29年 1月 1 日 至 平成29年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,000,000	—	—	2,000,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	42,791	4,083	15,301	31,573

(変動事由の概要)

パレス交通㈱の当社株式の売却による減少15,301株および関連会社の当社株式の取得による増加4,083株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年 3月28日 定時株主総会	普通株式	100	50	平成28年12月31日	平成29年 3月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年 3月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	120	60	平成29年12月31日	平成30年 3月27日

当連結会計年度(自 平成30年 1月 1 日 至 平成30年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,000,000	—	—	2,000,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	31,573	7,006	—	38,579

(変動事由の概要)

関連会社の当社株式の取得による増加7,006株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年 3月26日 定時株主総会	普通株式	120	60	平成29年12月31日	平成30年 3月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成31年 3月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	150	75	平成30年12月31日	平成31年 3月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
現金及び預金勘定	1,786百万円	2,874百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	75 "	75 "
現金及び現金同等物期末残高	1,711百万円	2,799百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

前連結会計年度(平成29年12月31日)

(1) リース資産の内容

有形固定資産 主として、ホテル関連における運用設備(器具及び備品)であります。

無形固定資産 主として、ホテル関連におけるソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

当連結会計年度(平成30年12月31日)

(1) リース資産の内容

有形固定資産 主として、ホテル関連における運用設備(器具及び備品)であります。

無形固定資産 主として、ホテル関連におけるソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち、解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
1年内	598	598
1年超	3,490	2,891
合計	4,089	3,490

オペレーティング・リース取引の未経過リース料残高は、未経過リース料が算定出来ない期間がありますが、現在のリース料を基礎として算定しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主にホテル事業を営むための設備投資計画に照らして必要な資金を主に銀行等の金融機関からの借入により調達しております。

また、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

デリバティブは、借入金の変動金利を固定化し、金利の変動リスクをヘッジするため、金利スワップ取引を利用しており、社内規定に従い実需の範囲で行うこととしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規定に沿ってリスクの低減を図るとともに、取引先ごとの期日管理を行っております。

投資有価証券は、当社グループの業務上の関係を有する顧客や取引先の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は1年以内の支払期日であります。

借入金、リース債務及び割賦未払金は、主に設備投資に必要な資金調達を目的としたものであり、このうち一部は、当社グループの変動金利を固定するため、個別契約として金利スワップ取引をヘッジ手段として利用しております。また、一部の借入金には財務制限条項が付されております。

デリバティブ取引の執行・管理については、社内規定に従って実需の範囲で実行しております。

資金調達に係る流動性リスクについては、当社の経理部が、各部署あるいは連結子会社からの報告に基づき、適時に資金計画を作成するなどの方法により、流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格のない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握するこ

とが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(注2)参照)

前連結会計年度(平成29年12月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,786	1,786	—
(2) 売掛金	3,361	3,361	—
(3) 投資有価証券 其他有価証券	422	422	—
資産計	5,570	5,570	—
(1) 買掛金	824	824	—
(2) 短期借入金	200	200	—
(3) 長期借入金 (一年以内に返済の長期借入金を含む)	55,020	64,116	9,096
(4) リース債務	2,005	2,170	164
(5) 長期割賦未払金 (割賦未払金を含む)	2,369	2,312	56
負債計	60,420	69,624	9,204
デリバティブ取引	1,970	1,970	—

当連結会計年度(平成30年12月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,874	2,874	—
(2) 売掛金	3,037	3,037	—
(3) 投資有価証券 其他有価証券	326	326	—
資産計	6,238	6,238	—
(1) 買掛金	763	763	—
(2) 長期借入金 (一年以内に返済の長期借入金を含む)	50,962	51,188	225
(3) リース債務	1,531	1,665	134
(4) 長期割賦未払金 (割賦未払金を含む)	687	687	0
負債計	53,944	54,305	360
デリバティブ取引	1,746	1,746	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

この時価については、取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

この時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっています。

(4) リース債務

この時価については、元利金の合計額を新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値によって算定しております。

(5) 長期割賦未払金

この時価については、元利金の合計額を新規に同様の割賦取引を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

時価の算定方法は取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成29年12月31日	平成30年12月31日
非上場株式	764	809
長期預り保証金	5,260	5,265

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

長期預り保証金については、市場価値がなく、かつ賃借人の入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であり、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

(注3) 金銭債権及び有価証券のうち満期のあるものの、連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内(百万円)
預金	1,728
売掛金	3,361

当連結会計年度（平成30年12月31日）

	1年以内(百万円)
預金	2,810
売掛金	3,037

(注4) 長期借入金、長期割賦未払金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	200	—	—	—	—	—
長期借入金	2,785	2,451	2,291	2,199	2,091	43,200
リース債務	474	495	1,035	0	—	—
長期割賦未払金	1,682	622	30	25	8	—
合計	5,145	3,566	3,357	2,226	2,100	43,200

当連結会計年度(平成30年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	—	—	—	—	—	—
長期借入金	2,558	2,405	2,309	2,201	2,087	39,400
リース債務	495	1,035	0	—	—	—
長期割賦未払金	622	30	25	8	—	—
合計	3,676	3,470	2,336	2,210	2,087	39,400

(有価証券関係)

1 その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの	(1) 株式	389	185	203
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	389	185	203
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの	(1) 株式	33	37	3
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	33	37	3
合計		422	223	199

当連結会計年度(平成30年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの	(1) 株式	287	180	106
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	287	180	106
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの	(1) 株式	38	42	3
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	38	42	3
合計		326	223	103

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額 (百万円)	契約額のうち 1年超 (百万円)	連結決算日における 時価
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,500	—	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されるため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として企業年金基金制度を設けており、また総合型確定拠出年金制度(日本ホテル業企業型年金)に加入しております。また、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1 日 至 平成30年12月31日)
退職給付債務の期首残高	2,172	2,135
勤務費用	134	133
利息費用	5	5
数理計算上の差異の発生額	26	11
退職給付の支払額	149	144
退職給付債務の期末残高	2,135	2,141

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1 日 至 平成30年12月31日)
年金資産の期首残高	2,134	2,407
期待運用収益	42	48
数理計算上の差異の発生額	207	249
事業主からの拠出額	172	181
退職給付の支払額	149	144
年金資産の期末残高	2,407	2,242

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1 日 至 平成30年12月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	242	263
退職給付費用	28	26
退職給付の支払額	7	25
退職給付に係る負債の期末残高	263	263

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	2,135	2,141
年金資産	2,407	2,242
	271	100
非積立型制度の退職給付債務	263	263
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	8	163
退職給付に係る負債	263	263
退職給付に係る資産	271	100
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	8	163

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1 日 至 平成30年12月31日)
勤務費用	134	133
利息費用	5	5
期待運用収益	42	48
数理計算上の差異の費用処理額	31	52
簡便法で計算した退職給付費用	28	26
その他	7	21
確定給付制度に係る退職給付費用	164	85

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1 日 至 平成30年12月31日)
数理計算上の差異	265	314
合計	265	314

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
未認識数理計算上の差異	352	38
合計	352	38

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
債券	35%	37%
株式	61%	54%
現金及び預金	3%	5%
その他	1%	4%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表している。）

	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1 日 至 平成30年12月31日)
割引率	0.2%	0.2%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%

3 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度24百万円、当連結会計年度25百万円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	37百万円	41百万円
未払事業所税	16 "	16 "
未払事業税	46 "	66 "
退職給付に係る負債	117 "	92 "
役員退職慰労引当金	172 "	184 "
繰越欠損金	7 "	9 "
金利スワップ評価損	603 "	534 "
減価償却超過額	120 "	- "
その他	65 "	45 "
繰延税金資産小計	1,186百万円	990百万円
評価性引当額	262 "	275 "
繰延税金資産合計	924百万円	714百万円
(繰延税金負債)		
退職給付に係る資産	-百万円	19百万円
その他有価証券評価差額金	61 "	31 "
退職給付に係る調整累計額	108 "	11 "
繰延税金負債合計	169 "	62 "
繰延税金資産(負債)の純額	755百万円	652百万円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	117百万円	143百万円
固定資産 - 繰延税金資産	745 "	520 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
法定実効税率	30.9%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%	0.1%
住民税均等割等	0.6%	0.2%
税率変更に伴う差異	0.0%	0.0%
評価性引当額の増減	0.8%	0.2%
税額控除	3.1%	1.2%
その他	0.9%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.6%	29.8%

(賃貸等不動産関係)

当社グループの主要な賃貸等不動産として、東京都内において賃貸用オフィスビルを有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は3,021百万円（賃貸収益は売上高に、賃貸費用は営業費用に計上）であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は3,223百万円（賃貸収益は売上高に、賃貸費用は営業費用に計上）であります。

賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	32,419	31,237
	期中増減額	1,181	1,091
	期末残高	31,237	30,146
期末時価		143,899	153,017

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 時価の算定方法

期末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定書に基づく金額であります。

3 前連結会計年度の主な変動は、減価償却額の減少によるものであります。

当連結会計年度の主な変動は、減価償却額の減少によるものであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務状況が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「ホテル事業」及び「不動産賃貸事業」の事業を営んでおります。

「ホテル事業」はホテル事業及びこれに付帯する業務（委託食堂等を含む）をしており、「不動産賃貸事業」は、事務所及び店舗の賃貸管理業務をしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額（注）1	連結財務諸表計上額（注）2
	ホテル事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	24,947	6,283	31,230	—	31,230
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	540	540	540	—
計	24,947	6,824	31,771	540	31,230
セグメント利益	2,819	3,036	5,855	576	5,278
セグメント資産	48,412	35,356	83,768	2,594	86,363
その他の項目					
減価償却費	2,647	1,185	3,833	3	3,836
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	336	4	340	—	340

（注）1．調整額は、以下のとおりであります。

（1）セグメント利益の調整額 576百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に当社の総務人事・経理部門等の管理部門に係る経費であります。

（2）セグメント資産の調整額2,594百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、当社での余資運用資金（現金及び有価証券）、管理部門に係る資産であります。

2．セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	連結財務諸表計上額(注)2
	ホテル事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	25,127	6,367	31,494	—	31,494
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	540	540	540	—
計	25,127	6,907	32,034	540	31,494
セグメント利益	3,489	3,226	6,716	586	6,129
セグメント資産	46,487	33,642	80,129	3,748	83,877
その他の項目					
減価償却費	2,203	1,102	3,305	3	3,308
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	442	8	450	8	459

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 586百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に当社の総務人事・経理部門等の管理部門に係る経費であります。
- (2) セグメント資産の調整額3,748百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、当社での余資運用資金(現金及び有価証券)、管理部門に係る資産であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱地所㈱	6,195	不動産賃貸事業

当連結会計年度(自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱地所㈱	6,273	不動産賃貸事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)	
1 株当たりの純資産額	7,018円33銭	1 株当たりの純資産額	8,912円72銭
1 株当たりの当期純利益金額	676円83銭	1 株当たりの当期純利益金額	2,092円43銭

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

2 . 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	1,326	4,114
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主 に帰属する当期純利益 (百万円)	1,326	4,114
普通株式の期中平均株式数 (千株)	1,960	1,966

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	200	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	2,785	2,558	0.61	—
1年以内に返済予定のリース債務	474	495	2.16	—
1年以内に返済予定の長期割賦未払金	1,682	622	1.85	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	52,235	48,404	0.46	平成32年1月～ 平成36年9月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,531	1,035	2.17	平成32年1月～ 平成33年3月
長期割賦未払金(1年以内に返済予定のものを除く。)	687	64	0.55	平成32年1月～ 平成34年8月
合 計	59,595	53,180	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金、長期割賦未払金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	2,405	2,309	2,201	2,087	39,400
リース債務	1,035	0	—	—	—
長期割賦未払金	30	25	8	—	—

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,232	2,531
売掛金	2,996	2,662
たな卸資産	¹ 286	¹ 277
前払費用	107	70
繰延税金資産	112	138
その他	63	78
流動資産合計	4,799	5,759
固定資産		
有形固定資産		
建物	66,194	64,070
減価償却累計額	16,816	16,862
建物（純額）	^{2, 4} 49,377	^{2, 4} 47,207
構築物	821	735
減価償却累計額	414	361
構築物（純額）	⁴ 407	⁴ 373
機械及び装置	315	316
減価償却累計額	184	209
機械及び装置（純額）	130	107
車両運搬具	43	36
減価償却累計額	28	25
車両運搬具（純額）	14	10
工具、器具及び備品	1,959	1,824
減価償却累計額	1,616	1,492
工具、器具及び備品（純額）	343	332
土地	² 17,207	² 17,207
リース資産	4,254	4,254
減価償却累計額	2,415	2,842
リース資産（純額）	1,839	1,412
建設仮勘定	177	123
有形固定資産合計	69,496	66,775
無形固定資産		
ソフトウェア	4	73
公共施設負担金	3,750	3,637
リース資産	75	58
無形固定資産合計	3,830	3,769
投資その他の資産		
投資有価証券	471	374
関係会社株式	4,091	4,092
差入保証金	358	476
前払年金費用	—	62
長期前払費用	16	11
繰延税金資産	724	499
その他	252	267
投資その他の資産合計	5,914	5,784
固定資産合計	79,241	76,329
資産合計	84,041	82,089

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	580	521
短期借入金	257	57
1年内返済予定の長期借入金	2 2,250	2 2,000
リース債務	470	470
割賦未払金	4 1,364	4 513
未払金	1,182	1,408
未払費用	276	294
未払法人税等	773	1,119
未払消費税等	314	346
前受金	391	398
預り金	85	102
賞与引当金	121	136
その他	251	286
流動負債合計	8,318	7,653
固定負債		
長期借入金	2 51,200	2 47,400
リース債務	1,506	1,035
長期割賦未払金	4 513	-
退職給付引当金	81	-
役員退職慰労引当金	518	550
長期預り保証金	5,025	5,030
金利スワップ	1,970	1,746
その他	101	-
固定負債合計	60,916	55,763
負債合計	69,235	63,416
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金		
資本準備金	1	1
資本剰余金合計	1	1
利益剰余金		
利益準備金	250	250
その他利益剰余金		
役員退職積立金	260	260
別途積立金	3,360	3,360
繰越利益剰余金	9,795	13,728
利益剰余金合計	13,665	17,598
株主資本合計	14,667	18,600
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	138	71
評価・換算差額等合計	138	71
純資産合計	14,805	18,672
負債純資産合計	84,041	82,089

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日)
売上高		
ホテル事業部門売上	18,610	18,702
賃貸事業売上高	6,824	6,907
売上高合計	25,434	25,609
営業原価		
材料費	2,060	2,056
その他の原価	108	115
給料及び手当	5,574	5,583
賞与引当金繰入額	121	136
退職給付費用	155	70
役員退職慰労引当金繰入額	31	33
福利厚生費	844	866
水道光熱費	790	790
地代家賃	565	566
消耗品費	390	357
減価償却費	3,578	3,034
租税公課	1,762	1,788
支払手数料	1,395	1,292
その他	2,845	2,844
営業原価合計	20,224	19,538
営業利益	5,209	6,071
営業外収益		
受取配当金	20	21
金利スワップ評価益	—	223
その他	70	64
営業外収益合計	90	309
営業外費用		
金利スワップ評価損	1,970	—
支払利息	1,062	704
支払手数料	436	—
その他	10	26
営業外費用合計	3,479	730
経常利益	1,821	5,650
特別利益		
固定資産税還付金	—	440
特別利益合計	—	440
特別損失		
建物解体費用	25	304
固定資産除却損	12	—
投資有価証券評価損	5	—
特別損失合計	42	304
税引前当期純利益	1,778	5,787
法人税、住民税及び事業税	944	1,505
法人税等調整額	428	228
法人税等合計	516	1,733
当期純利益	1,262	4,053

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日）

(単位：百万円)

	株主資本									評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金						利益剰余金合計	
					役員退職積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
当期首残高	1,000	1	1	250	260	3,360	8,632	12,502	13,504	105	105	13,609
当期変動額												
剰余金の配当							100	100	100			100
当期純利益							1,262	1,262	1,262			1,262
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										33	33	33
当期変動額合計							1,162	1,162	1,162	33	33	1,196
当期末残高	1,000	1	1	250	260	3,360	9,795	13,665	14,667	138	138	14,805

当事業年度（自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年12月31日）

(単位：百万円)

	株主資本									評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計				
					役員退職積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
当期首残高	1,000	1	1	250	260	3,360	9,795	13,665	14,667	138	138	14,805
当期変動額												
剰余金の配当							120	120	120			120
当期純利益							4,053	4,053	4,053			4,053
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										67	67	67
当期変動額合計							3,933	3,933	3,933	67	67	3,866
当期末残高	1,000	1	1	250	260	3,360	13,728	17,598	18,600	71	71	18,672

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品、原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

機械装置及び運搬具 5～17年

工具、器具及び備品 3～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ソフトウェア(自社利用分) 5年

公共施設負担金 38年

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンスリース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充当するため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

6 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ヘッジ手段 デリバティブ取引（金利スワップ取引）
- ・ヘッジ対象 借入金利息

(3) ヘッジ方針

将来の金利変動によるリスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を導入しております。

(4) その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

デリバティブ取引は信用リスクと市場リスクを有しておりますが、信用リスクについては、取引相手として信用度の高い金融機関に限定し、また、市場リスクについては、目的をヘッジ取引に限定することにより、リスクの回避を行っております。

7 その他の財務諸表作成のための重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（表示方法の変更）

（貸借対照表関係）

前事業年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めていた「繰延税金資産」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた976百万円は、「繰延税金資産」724百万円と「その他」252百万円として組替えております。

(貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
商品及び製品	3百万円	2百万円
原材料及び貯蔵品	282 "	274 "
計	286 "	277 "

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

(1) 担保提供資産

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
土地	15,130百万円	15,130百万円
建物	36,627 "	35,799 "
計	51,757 "	50,929 "

(2) 担保付債務

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
長期借入金 (一年以内に返済予定の長期借入金を含む)	53,450百万円	49,400百万円

3 保証債務

下記の会社の銀行等の借入金及びリース取引について保証を行っています。

(1) 銀行等の借入金等に対する保証

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
株式会社パレスエンタープライズ	673百万円	502百万円

(2) リース取引に対する保証

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
株式会社パレスエンタープライズ	4,088百万円	3,490百万円

なお、リース取引に係る保証債務については、未経過リース料が算定出来ない期間がありますが、現在のリース料を基礎として算定しております。

4 割賦買戻契約により所有権が売主に留保されたもの

(1) 所有権留保資産

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
建物及び構築物	4,704百万円	4,044百万円

(2) 割賦未払金残高

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
流動負債「割賦未払金」	1,364百万円	513百万円
固定負債「長期割賦未払金」	513 "	— "
合 計	1,877 "	513 "

(損益計算書関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

前事業年度（平成29年12月31日）

子会社株式及び関連会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式3,165百万円、関連会社株式925百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式および関連会社の時価を記載しておりません。

当事業年度（平成30年12月31日）

子会社株式及び関連会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式3,165百万円、関連会社株式926百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式および関連会社の時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	37百万円	41百万円
未払事業所税	11 "	11 "
未払事業税	46 "	66 "
退職給付引当金	25 "	- "
役員退職慰労引当金	158 "	168 "
金利スワップ評価損	603 "	534 "
建物臨時償却費	120 "	- "
その他	65 "	45 "
繰延税金資産小計	1,065百万円	868百万円
評価性引当額	169 "	179 "
繰延税金資産合計	898百万円	689百万円
(繰延税金負債)		
前払年金費用	-百万円	19百万円
その他有価証券評価差額金	61 "	31 "
繰延税金負債合計	61 "	50 "
繰延税金資産(負債)の純額	837百万円	638百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%	0.1%
住民税均等割等	0.4%	0.1%
税率の変更に伴う差異	0.0%	0.0%
評価性引当額の増減	0.6%	0.2%
税額控除	3.3%	1.2%
その他	0.2%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.0%	30.0%

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、有価証券明細表の記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	66,194	1 129	4 2,253	64,070	16,862	2,299	47,207
構築物	821	5	91	735	361	39	373
機械及び装置	315	5	4	316	209	28	107
車両運搬具	43	—	6	36	25	3	10
工具、器具及び備品	1,959	2 100	5 235	1,824	1,492	98	332
土地	17,207	—	—	17,207	—	—	17,207
リース資産	4,254	—	—	4,254	2,842	426	1,412
建設仮勘定	177	263	318	123	—	—	123
有形固定資産計	90,973	504	2,909	88,568	21,793	2,895	66,775
無形固定資産							
ソフトウェア	20	3 77	11	86	12	8	73
公共施設負担金	4,194	—	—	4,194	556	113	3,637
リース資産	175	—	—	175	117	17	58
その他	3	—	—	3	3	—	—
無形固定資産計	4,392	77	11	4,459	690	139	3,769

(注) 当期増加額及び減少額の内、主なもの

1	パレスホテル東京 地下一階ウェディングサロン改修工事	52	百万円
	武蔵野寮 内装工事	33	"
	パレスホテル東京 宴会場壁面クロス張替工事	23	"
	パレスホテル東京 宴会場喫煙バルコニー改修工事	19	"
2	パレスホテル東京 コンピューターシステム更新(ハードウェア)	72	"
	パレスホテル 貸ビルテナント電気料課金メーター	8	"
3	パレスホテル東京 コンピューターシステム更新(ソフトウェア)	76	"
4	パレスホテル箱根閉館による除却	2,253	"
5	パレスホテル箱根閉館による除却	222	"

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
賞与引当金	121	136	121	—	136
役員退職慰労引当金	518	33	1	—	550

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1 月 1 日から12月31日まで
定時株主総会	3 月中
基準日	12月31日
株券の種類	1 株券、 5 株券、 10株券、 50株券、 100株券、 500株券、 1,000株券、 100株未満表示券
剰余金の配当の基準日	6 月30日 12月31日
1 単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目 1 番 1 号 株式会社パレスホテル 総務課
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	1 枚当り 100円 + 印紙税相当額
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目 1 番 1 号 株式会社パレスホテル 総務課
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
買取手数料	送金手数料等の実費
公告掲載方法	東京都において発行する産経新聞
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を有しておりません。

会社法第189条第 2 項各号に掲げる権利

会社法第166条第 1 項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第73期(自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年12月31日) 平成30年 3 月26日関東財務局長に提出。

(2) 半期報告書

事業年度 第74期中(自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年 6 月30日) 平成30年 9 月28日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成31年 3月25日

株式会社パレスホテル

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 角 田 伸 理 之

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 廣 瀬 美 智 代

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パレスホテルの平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パレスホテル及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成31年 3月25日

株式会社パレスホテル

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

角 田 伸 理 之

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

廣 瀬 美 智 代

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パレスホテルの平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第74期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パレスホテルの平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。